

鹿児島県・妙見温泉

忘れの里 雅叙苑

Wasurenosato GAJOEN

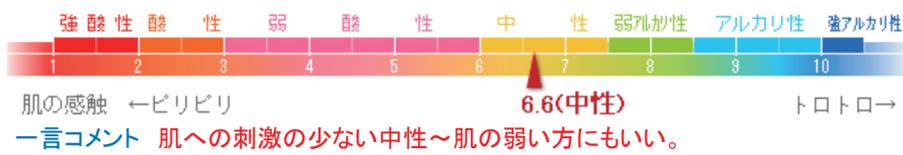
〒899-6507
鹿児島県霧島市牧園町宿窪田4230
TEL：0995-77-2114



■ 宿データ

1泊2食料金 ¥25,560～
1泊朝食料金 -
素泊り -
一人泊 -
宿泊時の貸切風呂料金 無料
日帰り ¥3,000～（昼食付き）
日帰り貸切温泉 ¥12,600～
（お風呂リビング+昼食付き）

■ 水素イオン濃度（pH ベーハー）



■ 温泉成分表

湯の色 無色透明
溶存物質（ガス性ものを除く成分①+②+③の合計）1275mg
泉温 ①37℃ ②54℃ pH値 6.6（中性） ラドン含有量 1.0×10^{-10} Ci/kg (3.7 Bq/kg) / 0.278 マツヘ
湧出量 ①②合計で約 200 リットル/分
温泉の成分（源泉 1kg 中に含有する分量）：①②の混合泉

陽イオン	シケラム	シモル	シハル%	陰イオン	シケラム	シモル	シハル%
ナトリウムイオン(Na ⁺)	144.90	6.30	41.18	フッ素イオン(F ⁻)	0.20	0.01	0.07
カリウムイオン(K ⁺)	27.60	0.71	4.64	塩素イオン(Cl ⁻)	82.0	2.31	15.64
アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺)	1.40	0.08	0.52	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	58.50	1.22	8.26
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	47.50	3.91	25.56	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	684.60	11.22	75.96
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	85.40	4.26	27.84	炭酸イオン(CO ₃ ²⁻)	0.20	0.01	0.07
鉄(Ⅰ)(Fe ²⁺)	1.20	0.04	0.26				
計①	308.00	15.30	100.00	計②	825.50	14.77	100.00
非解離成分	シケラム	シモル	溶存物質総計	溶存ガス成分	シケラム	シモル	成分総計
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	132.30	1.69	1275.00	遊離二酸化炭素(CO ₂)	289.30	6.57	1564.00
メタホウ酸(HBO ₂)	8.80	0.20					
計③	141.10	1.89		計	289.30	6.57	

その他微量成分

総ヒ素0.027mg/kg、銅イオン0.01mg/kg未満、鉛イオン0.01mg/kg未満、総水銀0.5μg/kg未満、カドミウム0.005mg/kg未満

宿よりデータを提供して頂きました。

この泉質ならではの浴用の適応症

慢性皮膚病、切り傷、やけど + 美肌効果、アレルギー疾患、じんましん等

浴用の適応症

慢性皮膚病、切り傷、やけどの他に、一般的適応症（神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進）

浴用の禁忌症

急性疾患、（とくに熱のある場合）、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性の疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中（とくに初期と末期）

飲用の適応症

糖尿病、痛風、肝臓病、慢性消化器病（保健所の許可を取得していません）

飲用の禁忌症

腎臓病、高血圧症、一般にむくみがあるとき、甲状腺機能亢進症のときヨウ素を含有する温泉は禁忌

分析日

平成 16 年 10 月 05 日分析：（社）鹿児島県薬剤師会

温泉解説

露天風呂付き客室をこの世に出した、日本の原風景を残す茅葺きの宿

泉質名

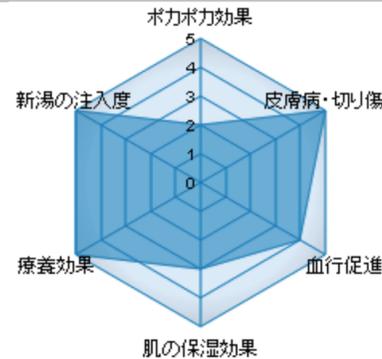
ナトリウム・カルシウム・マグネシウム-炭酸水素塩泉
低張性 中性 温泉（旧泉質名：含土類-重曹泉） ※混合泉

■ 源泉の利用状況

加水なし	加温なし	消毒なし	消毒なし	入浴剤なし
△	○	○	○	○

※夏季のみ温度調節のため加水する場合あり

■ 温泉力 チャート（5段階評価）



源泉率 100%

湯の入替 毎日

源泉の湧出状況 ※すべて自家源泉

- ①掘削自噴
- ②ボーリングしての掘削（動力揚湯）
- ※③炭酸泉（推定 / 泉質表なし）…自然湧出

源泉から湯舟までの距離

- ①4～30m ②約2km ③0m（直下）

温度の調整方法

- ①37℃ ②54℃の温泉を混合して調節

飲泉 飲用申請を不提出

源泉かけ流し風呂

- ・男女別浴場 ×2
- ・貸切風呂 ×3
- ・部屋付きの露天風呂 ×3
- ・部屋付きの豪華内風呂（お風呂リビング）×5

◆美肌の湯度数 ※最高は4つ星 ★★★★★

★美肌の湯の代表格・重曹泉に、肌をコーティングするメタケイ酸が豊富

◆こんな人に最適

湯上りに、じんわり汗が出るポカポカ系の湯より、さっぱりと湯上り爽快系を好む方

◆温泉レポート（文・温泉&宿コンシェルジュ 大竹仁一）

「忘れの里 雅叙苑」は、3つの自家源泉を使用している。

その源泉を使って、かけ流し（お湯を循環せず、湯舟に常に新しい源泉を注ぎオーバーフローさせる方式）にしている。うち、メインで使用しているのが、37℃と54℃の泉温の違う温泉を混合したもの。

泉質名は「ナトリウム・カルシウム・マグネシウム-炭酸水素塩泉」。旧泉質名は「含土類-重曹泉」。無色透明の、この温泉が、男女別浴場の「建湯（たけるゆ）」で使用されている。温度の低い37℃の源泉井戸は、「雅叙苑」敷地内にある。掘削自噴の井戸だが、以前は50℃前後あったという。

敷地前に流れる清流・天降川（あもりがわ）の度重なる増水などにより泉温が下がったため、2km弱離れた「にわとり牧場」（同社経営）にあるボーリングして掘削した井戸から、57℃の源泉を「雅叙苑」の敷地まで引湯している。それを混合して、41℃前後の適温にしているわけだ。

温泉の特徴は、まず「美肌の湯」と形容される「重曹泉」（ナトリウム-炭酸水素塩泉）のキャラクターが際立つ。「重曹泉」は、石鹸と同じように、肌に付着した皮脂や老廃物を乳状にして洗い流す作用がある。肌がツルツルスベスベになるのはそのせいだ。入浴後は、肌に付着した炭酸ガスの作用により、水分発散が盛んになり、さっぱりとした清涼感を得られることから「清涼の湯」とも呼ばれる。そして、第二の特徴は「重炭酸土類泉」（カルシウム・マグネシウム-炭酸水素塩泉）。カルシウムやマグネシウムなどの土類が含まれると鎮静作用や炎症を抑える効果が得られる。アレルギー疾患やじんましんなどにも効果があるとされている。天然の保湿成分と呼ばれるメタケイ酸も温泉基準値の2.5倍も入っているため、美肌効果に拍車をかけている。

しかも、pH6.6の中性。一般的に人肌は弱酸性となっているが、それに近いpH値であるため、肌への刺激も少なく、赤ちゃんや年配の方など、肌の弱い方にも向いている泉質と言えるだろう。

客室露天風呂の温泉は、主に高温の源泉（にわとり牧場の源泉）を使用している。夏季など湯温が下がらない場合は、地下水を加水して、温度調節をしている。

上記のように、改めて温泉の溶存物質を分析してみると特徴が見えてくるが、「雅叙苑」の温泉には数字では評価できない何かがあるのは確かだ。それはいわゆる「軟地効果」というものかもしれない。それは、日常と違った環境や土地に移ることにより、五感が刺激され療養効果が増するというもの。精神的にリフレッシュできるのも大きい。

「建湯」と同じ混合泉は、敷地の一番先にある貸切風呂「打たせ湯/ラムネ湯」でも使われている。

入口近くにある湯舟がそうだ。ただし、打たせ湯は、温度の低い37℃の温泉を使っている。

しかし、奥のもうひとつの湯舟で使われているのは、第3の源泉。

それは、古くからある自然湧出の自噴泉のことで、通称「ラムネ湯」（36℃前後）と呼ばれている。

この宿では温泉分析をしていないため、正確な泉質はここではご紹介できないが、「建湯」よりも炭酸ガスが多く含まれていることから「純二酸化炭素泉（旧泉質名：純炭酸泉）」の要素が高いのかもしれない。その証拠に、入浴した際、体毛に炭酸の泡が付着するのが分かる。「二酸化炭素泉」は、空気に触れたり、時間が経過すると効能が落ちるものだが、ここでは源泉が湯舟の直下という事もあり、新鮮で理想的な湯浴みができる。炭酸ガスの無数の気泡が、肌に刺激を与え、毛細血管を拡張させる効果があるため、血液の循環を促進させ、血圧を下げる効果も期待できる。そのため「心臓の湯」とも呼ばれている。



男女別浴場&貸切風呂「建湯（たけるゆ）」



特別室離れ「椿」のお風呂リビング

「風」の客室露天風呂



貸切風呂「うたせラムネ湯」